

## 発展的評価項目＜独自評価項目＞

～事業所におけるサービスの質の向上のためのシステムについての評価結果です～

事業所名： 湘南アフタケア協会

取り組み

快適なオムツライフ

取り組み期間

6年1月～  
6年10月

PDCA	取り組みの概略
「P」 目標と 実践計画	<p>利用者の夜間のオムツ交換は17時、21時、1時、5時の4回行っている。そのうち、1時のオムツやパッド交換では、目が覚めてしまったり、起き出して動き回る方や再入眠ができない方がいる。排泄介助の回数を1回スキップして少しでも長い時間、快適に眠っていただけるよう各部署で検討を始めた。オムツ、パッド代は家族（利用者）の負担なので、スキップすることでコストダウンにつながるため、家族（利用者）の負担の軽減も目指した。長期目標に「利用者の方の睡眠を確保することで、コストダウンができる」、短期目標に「その方に合った、オムツやパッドを選ぶ」を置き、取り組みを開始した。</p>
「D」 計画の実践	<p>目標の達成に向け、計画を立てて実践した。                      ①オムツメーカーに依頼し、オムツの性質や性能、効果的な使用方法の研修を行う。                      ②対象の方の尿量を2週間、計測する。③対象の方に最適なオムツやパッドを選んで使用する。④1時のオムツ交換をスキップして、状況を確認する。                      対象者：神奈川後保護施設9名、重度神奈川後保護施設6名。</p>
「C」 実践の評価	<p>神奈川後保護施設：9名の利用者の尿量を把握することができた。また、9名のうち7名の方がコストダウンにつながった。心配していた肌のトラブルも見られなかった。睡眠を妨げることもなかった。                      重度神奈川後保護施設：同じ方法では、尿量の把握ができなかった。6名とも自由にトイレに行くことができるため、把握ができなかった。</p>
「A」 結果と 改定計画	<p>神奈川後保護施設：2名の方は睡眠が浅く、オムツいじりなどにつながってしまった。コストダウンにはつながらなかったため、オムツメーカーと再度相談して、結果につなげていくことにした。また、パッド使用者は他にもいるため、対象を拡大することにした。今回の取り組みで、夜間、目が覚めないことで転倒のリスクが軽減したことなど、思いがけない効果もあった。                      重度神奈川後保護施設：尿量の把握の方法を再度検討することにした。</p>

### ＜第三者評価コメント＞

今回の取り組みで、一定の成果があがっている。取り組みは継続していくとのことで、今後の成果に期待する。